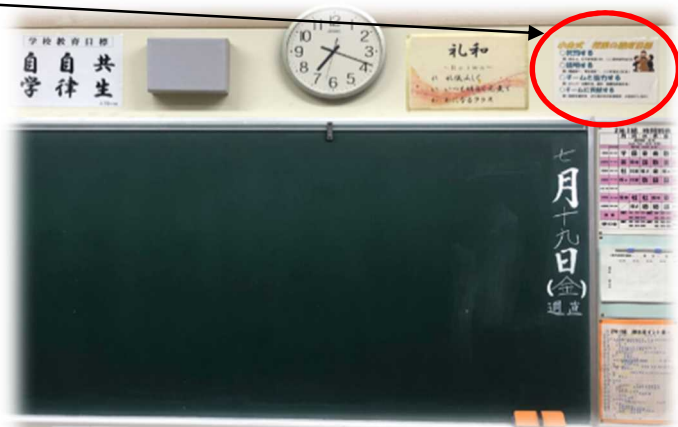


ちばっ子の学び変革！

研究指定校の取組（令和元年度）	
校名	松戸市立小金中学校
研究概要	<p>【研究主題】 自らの学びを広げ深める対話を促す工夫を用いた授業実践 ～自らの学びを広げ深める対話的な学びに重点を置いた授業を実践することで、新たな学びの実現に向けた授業改善を行う。～</p> <p>【令和元年度の重点】</p> <p>(1) 公開研究会に向けて、研究主題に基づく実践を積み重ねていく。</p> <p>(2) 実践に対する成果と課題をまとめ、今後の授業で生かすことのできる職員研修を設定する。</p>
実践内容	<p>(1) 対話的な学びを実現する学習環境づくり</p> <p>ア 「説明する、質問する、協力する、チームに貢献する」といった態度目標を全クラスに掲示することで、対話的な学びが促進された。</p> <p>イ パワーポイントや、プロジェクター、プリントなどを活用した説明時間の短縮を図り、生徒の活動時間を確保することができた。</p> <p>ウ 生徒の活動時間は、広い視野で生徒を観察し、うまく活動できていない生徒には質問で介入することで理解が進んだ。(活動時間中、生徒はわからないことを質問し、わかることは説明する。)</p> <p>エ 全クラスにホワイトボードを9セット配布し、3～4人の学習グループで対話的な学びのツールとして活用することができた。</p> <p>オ 授業の振り返りを積極的に行い、今後のより良い学びへとつなげた。</p>



【成果と課題】

- ・生徒の活動時間を確保するために、教師の説明は最小限にとどめることを意識した授業を心がける教師が増加した。生徒は課題解決の中で、「わかったら説明する」「わからなかったら聞く」場面が多く見られるようになり、教え合い学習やグループで課題解決学習を積極的に行うことができるようになった。
- ・ホワイトボードを活用することでグループ内の対話的な学びが促進し、さらにグループ間の対話的な学びにもつながった。
- ・毎時間の授業のおわりに、自らの学び方を「振り返る」といった一連の学び方をパターン化している職員も出始めているが、記述式での振り返りの時間を確保することが未だ難しいと感じている職員が多く、課題に挙げられる。



(2) 教科を超えた職員研修

他教科で構成された職員グループを編成し、相互授業参観を実施した。単元指導作成の段階で重点的に対話的な学びを促す授業を計画し、様々な職員に参観してもらい、フィードバックをもらうことで双方が授業改善の新たな視点を獲得することを目指した。

【成果と課題】

- ・相互授業参観では、他教科の職員間で参観し合うことで新たな学び方に気づくことができた。
- ・実技が中心となる教科では、圧倒的に制作や運動に時間が必要であり、その中での「対話的な学び」を工夫することが難しい。
- ・どの教科においても、身につけさせたい資質・能力を明らかにし、周囲との対話を生み、さらには自己との対話的な学びを促す授業実践を繰り返していくことが次年度への課題である。

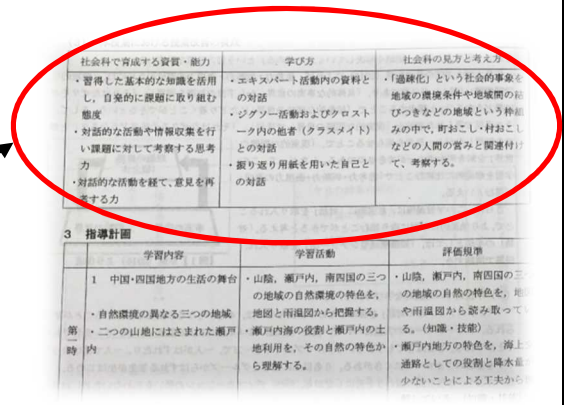
実践内容

(3) 新たな学びを意識した学習指導案

公開研究会の学習指導案には、授業改善で大切であると考えられる**3つの**

視点(①本授業で身に付けさせたい資質

・能力②それを育成する学び方③その授業で働かせる見方・考え方)を明確にした。さらに、「対話的な学びを促す工夫のねらい」や「授業改善の視点」の中に、単元をとおして、身に付けさせたい資質・能力を盛り込んで記述することとした。本時の指導の目標や評価の項目は、新3観点(①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度)で考案した。



【成果と課題】

- ・ 授業改善に必要な3つの視点の中でも、とりわけ各教科で働かせる見方・考え方のとらえ方が大変難しい。本授業の目標に達成するためになぜ対話的な学びが必要なのか、対話的な学びによって期待される資質・能力とは何か、教科部会を重ね、授業者は自問自答を重ね、授業計画を立案した。
- ・ 学習指導案を作成していく中で、これまでのような順番に沿って教えていくだけではなく、単元全体を見通して単元計画を立てる必要があることを見出している職員もいた。新3観点で目標や評価を作成したことも、今後新たな学びに向けた単元計画の作成と検討が必要である。